

中・ロ・イランの「新世界秩序」と故ライシ大統領

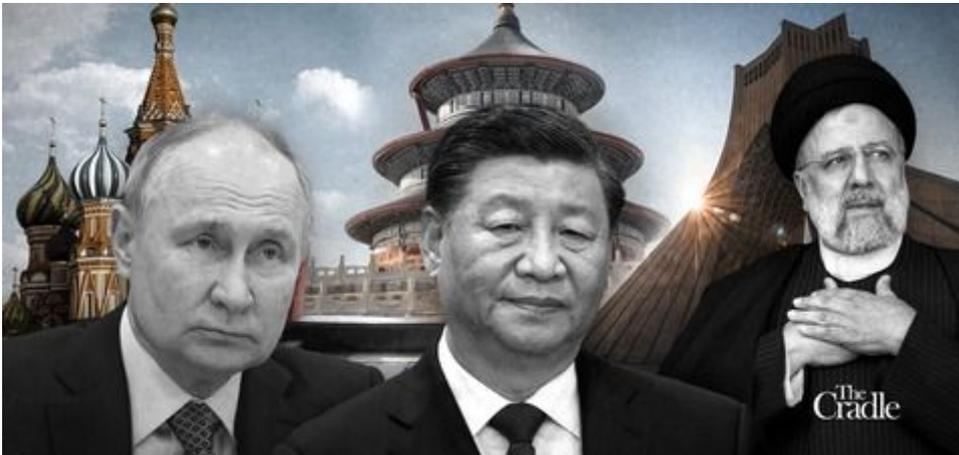
ペペ・エスコバル

The Cradle 2024 年 5 月 22 日

<https://thecradle.co/articles/raisi-led-the-charge-for-russia-iran-chinas-new-world-order>

イランの故ライシ大統領と3国の戦略的結合は、多極化世界の展望を切り開いた。

2014年のウクライナのマイダン・クーデター後、ロシアと中国の戦略的パートナーシップが本格的に加速し始めた。間もなく、イランは実質的にすべての石油生産を中国に売却し、中国の核の傘の保護下に入った。



イランはいま、エブラヒム・ライシ大統領を失った悲しみに包まれている。その中で、彼が新たなグローバル秩序に向けて切り開いた重要な道筋を紹介しよう。

ライシがイラン大統領に就任してからの約3年間で、ユーラシアの統合と多極化の推進は、基本的に3つの主要なアクターによって行われるようになった。

ロシア、中国、イランである。これは偶然ではなく、覇権国にとって3大「存立危機事態」である。

この日曜日（5月19日）の午後10時、ロシアのプーチン大統領はモスクワで、イランのカゼム・ジャラリ駐モスクワ大使を招き、ロシア国防チームの精鋭たちとの即席会談のテーブルに着かせた。

この招待は、イラン大統領の早すぎる死が「偶発的な事故」によるものなのか、それとも妨害行為によるものなのかをめぐる近視眼的なメディアの憶測をはるかに超えたものだった。

それは、イランを東向きの国（ロシア側諸国と親交を結ぶ国）として位置づけ、アジアの大国（中国）と戦略的同盟を大胆に結ぶ一方、テヘランと中東地域における過去の敵対国との緊張を緩和するという、ライシのたゆまぬ戦略的努力の成果から生まれたものである。

ユーラシア統合の強化

モスクワでの日曜日の夜のテーブルに戻ろう。アンドレイ・ベローゾフ国防相、セルゲイ・ショイグ安全保障会議書記長から、ヴァレリー・ゲラシモフ参謀総長、アレクサンドル・クレンコフ非常事態相、イーゴリ・レヴィチン大統領特別補佐官まで、全員がそこにいた。

重要なメッセージは、モスクワはテヘランの背中を押しているということだった。

ロシアはイランの安定と政権の継続を完全に支持している。そのことは、イランの憲法と、たとえ異常な状況下であっても平和的に政権が移行するための詳細な不測の事態によって、すでに完全に保証されている。

現在、地球上のほとんどの地域で、ハイブリッド戦争（本格的熱戦争に近い）の様相を呈しており、国際関係の新システムを形成する3つの文明国家の存在

感は、これ以上ないほど強烈である。ロシア・イラン・中国はすでに、二国間の包括的戦略パートナーシップによって相互につながっており、BRICS と上海協力機構のメンバーでもある、

先週、北京で行われたプーチンと習近平との首脳会談では、グローバル・マジョリティ全体の姿が明らかにされた。その本意を一言で言えば、アジアの3大国のいずれも、他のパートナーが“いつもの容疑者たち”（従米軍事同盟）によって不安定化させられることを許さないということだ。

ライシとイラン外交の輝かしい記録

故ライシ大統領と外交トップのアミール・アブドラヒアン外相は、これまで輝かしい遺産を残してきた。彼らのリーダーシップの下、イランはBRICSのメンバー、上海協力機構の正式メンバー、そしてユーラシア経済連合（EAEU）の主要な構成メンバーとなった。これらは、多極化への道を形作る3つの重要な多国間組織である。

- 1 . イランの新たな外交的推進力は、サウジアラビア、クウェート、エジプトからリビア、スーダン、ジブチまで、アラブとアフリカの主要プレイヤーにまで及んだ。
- 2 , テヘランは初めて、イスラエルに対して高度で大規模な軍事作戦を実施し、領内から無人偵察機やミサイルを雨あられと降り注いだ。
- 3 . イランとロシアの関係は、貿易と軍事・政治協力において次の段階に達した。2年前、プーチンとライシは包括的な二国間条約に合意した。現在、中核となる文書の草案が出来上がっており、イランの次期大統領が署名することで、パートナーシップはさらに拡大する。

イラン代表団の一人が昨年モスクワで私に語った。テーブルの上に何があるかと尋ねられたとき、ロシア側は、"何でも聞いてくれ"と答えたという。その逆もしかりだ。

つまり、ライシの「ルック・イースト」への戦略転換、ロシアとその先のアジアへの「軸足移動」の連動が、モスクワとテヘランによって取り組まれて来たのだ。

7 月にはベラルーシが上海機構の正式メンバーとなる。その首脳会議の準備のため、外相理事会が今週火曜日と水曜日にアスタナで開催される。重要なのは、サウジアラビアの内閣が政府の加盟の方針を承認したことだ。

当面のイラン外交は、アブドラヒアンの後継者カニ暫定外相を通じて引き継がれる。彼は間もなく、ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相や中国の王毅外相とともに、多層的な多極化の道筋を議論することになるだろう。

極超音速の共同声明

先週、プーチンと習近平の画期的な首脳会談が行われ、新しい協力機構の包括的な計画が明らかになった。それは 12,000 語を超える全 10 章の共同声明によって明らかにされ、「協力」の言葉が 130 回も登場する。

この文書は、ワシントンの恣意的な "ルールに基づく国際秩序 "を木っ端微塵に吹き飛ばす、極超音速の共同声明と表現するのがふさわしい。

特に目立つのはこの部分だ：

すべての国は、自国の国情と民意に基づき、発展モデルと政治・経済・社会システムを独自に選択する権利を有する。

主権国家の内政干渉に反対する、

国際法の根拠や国連安全保障理事会の承認を得ない一方的な制裁に反対し、

「ロングアーム司法権」に反対し、

イデオロギー的な根拠に基づく線引きに反対する。

双方は、新植民地主義や覇権主義は時代の趨勢に完全に反すると指摘し、

対等な対話、パートナーシップの発展、文明間の交流と相互学習の促進を求める。

イランは40年以上にわたって厳しく制裁されてきた。イランは今、中国とロシアから「経済離断」(デカップリング)に対抗する努力と、西側諸国の制裁がロシアに及ぼす影響について直接学んでいる。

例えば、中国・ヨーロッパ間の鉄道回廊は現在、本来の目的を外れて、中国製産品を中央アジアに輸送し、ロシアに再輸出するために使われている。

しかし、現在の貿易ブームの中で、物流のボトルネックも増えている。事実上、ヨーロッパのすべての港がロシア発着の貨物の取り扱いを拒否している。ロシア最大の港湾も、引き続き問題を抱えている。ウラジオストクには大型貨物船を収容する能力がなく、サンクトペテルブルクは中国から非常に遠い。

そのため、ロシア・中国共同宣言の第3章では特に、「港湾・運輸協力」、「金融協力の深化」、「産業協力の拡大」に重点が置かれている。

港湾・運輸協力は物流ルートの開発を含む。金融協力の深化は、金融サービスにおける現地通貨比率の向上を含む。産業協力の拡大は自動車・船舶製造、金属製錬、化学品などの戦略的分野を含む。例えば、国際南北輸送回廊(INSTC)の合理化、特にカスピ海のアストラハンからイランの港へ、そして道路を経由してペルシャ湾へ、というようなことである。

イランのバゲリ・カニ外相は以前、イランの「例外的な地政学的位置」の意義を強調したことがある。イランの四方は西アジア、ペルシャ湾、カスピ海地域、そしてより広いユーラシア大陸に達する。そのおかげで、イランはこの地域のすべての産業の「経済成長と経済的潜在力」に貢献できるというのだ。

プーチンは先週の訪中で、ロシアと地理的・歴史的に強いつながりのある東北部の大国ハルビンを訪れた。ここで開かれた巨大な中露博覧会には5,000を超える企業が参加した。カスピ海の港でロシアとイランの博覧会が同じように成功することは、想像に難くない。

プロメテウス計画

ロシア、中国、イランをつなぐものは、何よりもまず、主権を持つ文明国家によって設計された新たな枠組みである。殉教者ライシ大統領の運命的な逝去があったとしても、それは三国関係の「全体像」を少しも変えるものではない。3つの国は、過去何十年もの間、痛みと恐怖に支配された世界との戦いの、長いプロセスの、真ただ中にあるのだ。

このプロセスは、2013年の新シルクロードの正式発足を皮切りに、ここ数年で大きな牽引力を持つようになった。新シルクロードと一帯一路構想は、地政学的・地域経済学的構想である。それはまさしく先駆的なプロジェクト（Promethean project）だ。これと並行して、経済協力メカニズムとしての上海協力機構の役割も徐々に拡大している。繰り返しになるが、イランは一帯一路（BRI）、上海協力機構（SCO）、BRICSの主要メンバーである。

2014年のウクライナのマイダン・クーデター後、ロシアと中国の戦略的パートナーシップが本格的に加速し始めた。間もなく、イランは実質的にすべての石油生産を中国に売却し、中国の核の傘の保護下に入った。

イランはアフガニスタンでアメリカ帝国に屈辱を与えた。2022年2月のウクライナでの特別軍事作戦（SMO）でロシアを支持した。そして最近になってからBRICSに加わり、南半球への進出をうかがう。

2023年春のモスクワ訪問で、習近平はプーチンに次のように語った。「百年に一度の変化」が起ころうとしている。この不可避な変化の舵取りは中露両国が行うべきだと。先週、北京で行われた両首脳の話し合いの核心はまさにそこにあった。

グローバル・マジョリティは完全に理解した。イランが超高度に保護されたイスラエル領土を完璧な精度で爆撃したことは、中ロがゲームチェンジャーとなる明確なメッセージが送られたのだということ。そして西アジアにおける旧権力は終わりを告げようとしていることを。

中心国にとって心臓を保護する周辺国（中東諸国）を失うことは、まことに忌まわしいことである。それがいかに重要であるかを知っているなら、それを失うことは許されない。

歴史の新たな方向

歴史の天使は、世界における中心国を形作るにあたり、あらたな君主として、中国、ロシア、イランという国々を指し示している。これら3つの君主は、真のプロメテウス計画を実現するための認識能力、意志、創造性、組織能力、ビジョン、権力手段を備えている。指導者たちは理解と努力を共有している。

例えば、アリ・バゲリ・カニ新外相とともに、元核交渉官のサイド・ジャリリがイランの次期大統領に就任する可能性ほど魅力的なものがあるだろうか。過去には、ジャリリ氏は西側には「強硬派」すぎるとされてきた。しかしそれはもうどうでも良い。西側はこの国にはもうほとんど関係ない。

イランの「改革派」ハッサン・ローハニ前大統領の誤った西方進出の失敗から学んだイランは、ライシの時代に東方へ、多極化へと大転換した。この大方向が崩れることはないであろう。

筆者のペペ・エスコバルは、ブラジルの国際ジャーナリスト

【翻訳チェック 鈴木頌】